

地方創生推進交付金 事業計画（案）

地方創生加速化交付金で実施した「めざせ健康寿命日本一！～長生き“幸せ”まちづくり～」の深化と展開を目指し、次の事業を提案します。

1 事業名

生き生き高齢者、遊びきる子ども～アクティブ“コトウライフ”の実現～（仮）

2 背景・課題

（1）地方創生として目指す将来像

- 認知症予防先進地として、介護予防の更なる取り組みを推進、健康の数値化を図り、町民運動として展開、健康寿命日本一による町の魅力アップが実現する。
- アクティブシニア活躍の場づくりなどを進め、高齢者の社会活動参加が活性化、長い期間健康で、生涯活躍できる『「幸せ」感じる』まちづくりが進展する。
- 子どもの頃から地域での文化や音楽体験、そして公園などでの外遊びが盛んにできる環境づくりと、子ども時代からの遊びの活性化によるひとづくりが進む。

（2）課題

- 高齢者率の上昇に伴い 65 歳以上人口は 6,500 人を超えて増加している。しかし、
 - ・高齢者クラブ加入者数 2,800 人(H23) ⇒ 1,800 人(H27)
 - ・寿大学（高齢者学習事業）登録者 277 人(H24) ⇒ 218 人（H27）と、既存の高齢者組織活動の継続が難しくなりつつある。
- 高齢者を対象とした新たな取り組みとして、町が行う高齢者サークル事業（65 歳以上で構成される 5 人以上の集団に対しての活動費助成）の助成者数は 86 団体、約 1,000 人を超えているが、高齢者クラブとの重複活動者もあり、高齢者の活動・活躍の場の拡大について、より広い可能性を模索する必要がある。
- 情報機器・ゲーム機などの発達とともに、子どもの外遊びが少なくなっており、機械を経由しない人同士の遊びによる、身体能力と人間関係を育む力の発達を促す環境の整備はますます重要になっている。しかし、外遊び環境の整備として従来その役割を果たしてきた公園の遊具は老朽化に伴い撤去が進んでおり、公園の遊び環境の整備推進が必要となっている。

3 事業目的

- 町の実態を把握しなおし、時代にあった高齢者の活動の場のあり方・活動支援方策を検討、高齢者の活動支援をより幅広く行う事で、生涯現役のまちづくりを推進、健康寿命延伸に寄与する。
- 加速化交付金で整備した運動支援中核拠点の機能強化を図り、幅広い世代が体を動かす遊びを楽しむことができる環境を整備、高齢者と子どもの異年齢交流による相互刺激を活用しつつ、子どもが創造的な野外遊びを楽しみ、自らより積極的に運動遊びを行う習慣獲得と、高齢者の運動習慣定着の促進を図るとともに、介護予防と健康寿命延伸に寄与する。

4 目標設定

○運動習慣定着率	H32年3月	60% (加速化交付金と同一目標)
○健康寿命の延伸	H32年3月	男性 77.3歳 女性 82.3歳

5 具体的事業の概要 事業費合計 45,000千円 (推進交付金対象 38,000千円)

(1) ことうら流「アクティブシニア活動支援」

高齢者の活動実態調査を行い、その結果に基づいて外部有識者を招聘しての関係機関連携による今後の高齢者地域活動・活動支援のあり方を検討し、時代にあった高齢者地域活動・活動支援を実践していく。

年 度	事 業 内 容	事業費
H28	○実態調査検討委員会 100千円 ○先進地視察 100千円 ○実態調査委託 800千円	1,000千円
H29	○活動支援検討会開催 2,000千円	2,000千円
H30	○アクティブシニア活動支援センター設置委託 3,000千円 ○モデル地域活動助成 1,000千円	4,000千円
H31	○アクティブシニア活動支援センター設置委託 3,000千円 ○モデル地域活動助成 1,000千円	4,000千円
H32	○アクティブシニア活動支援センター設置委託 3,000千円	3,000千円
	(1) 事業費計	14,000千円

(2) 運動支援中核拠点の機能強化

総合運動公園に健康遊具等を導入、子どもから高齢者までが同じ場所で遊具を使って遊ぶ機運を作りあげ、町民の運動習慣定着を後押しする。

年 度	事 業 内 容	事業費
H28	○調査検討委員会 100千円 ○先進地視察 100千円 ○実態調査委託 800千円	1,000千円
H29	○遊具設置検討委員会 2,000千円 ○フォーラムの開催 1,000千円 ○遊具設置設計委託 1,000千円	4,000千円
H30	○健康遊具設置 10,000千円 ○子ども向け遊具設置 15,000千円 ○フォーラムの開催 1,000千円	26,000千円
	(2) 事業費計	31,000千円

*推進交付金事業対象期間：平成28年度～平成30年度